

2020年度 人間学部報告

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
学部としての定員充足率は104.3%であった。児童発達学科は92.3%と定員割れであった。人間福祉学科は、数年来定員割れの中2020年度は109%であったが、経営学部第二希望者からの入学にて定員充足ができた。また、児童発達学科においては学部内第二志望者に合格を出したが定着しなかった。この結果を受けて、この両学科の第一志望者を獲得すべく、両学科の広報に努める必要がある。	OCの動画、教員の模擬授業等工夫し、学科アピールに努めた。12月には対面のOCを実施し、施設設備紹介など教員が対応し、魅力的に伝えた。	OC配信動画、OCプログラム	定員充足率は以下の通りであった。コミュニケーション社会学科117%、児童発達学科73.0%、人間福祉学科83.6%、心理学科112%、学部全体92.3% 児童発達学科、人間福祉学科で定員割れであった。	入試結果	児童発達学科募集力を回復するための広報活動などについて年度当初から検討を開始する。人間福祉学科についても各コースの状況などを分析し、どのコース(資格種別も含め)を重点的にアピールするかを検討する。受験生を早期に獲得する施策を考えることとする。
2020.3.31学部退学率は2.3%であった。さらに退学を減らしていく。	上半期は1.1%で年度末1.9%であった。前年度より改善している。		退学理由は他大学への転学、就職など進路変更の理由が58.3%で最も多かった。不本意入学学生への対応方法、経済的支援等の検討が必要である。	大学運営会議学部報告 教務G資料	クラスアドバイザー面接等を通して、学生の就学意欲や経済的状況について把握するように努め、課題を共に考え対応方法等のアドバイスを行う必要がある。
授業満足度74.3%という実績を踏まえ、75%を目標とする。学生実態の把握に努め、教員の授業開発、授業改善を促すためにFD研修のさらなる充実を図る。	人間学部ではオンデマンド授業を主として行った。前後期学部FD研修会では遠隔授業をテーマとしてその充実を図った。オンデマンドの配信内容、授業方法の工夫、学生対応の工夫などが話し合われた。		前期のオンライン授業アンケートでは、概ね授業に満足しているが、登校したい学生が多いことが推測された。後期学修状況調査では、興味関心のある科目がある(76.8%)、モチベーションがある(58.8%)、学びたいことが学べている(64.8%)など、授業への意欲はあることがわかる。一方で、授業についていけないと感じることがある(54.6%)もあり、授業方法の改善及び個別支援も必要である。(数値は全学科全学年平均)また、授業や学修環境満足度では全く、あまり満足していない(58.4%)となっている。自由記述をみると、課題の多さや大学への登校希望が緩られており、大学施設を活用した学びに対する期待がある。	2020年度前期オンライン授業アンケート 2020年度学修状況調査の報告	対面授業と遠隔授業のハイブリット型になる。学生が混乱しないようガイダンスの内容を吟味する、わかりやすい資料を作成し初年次につまづかないよう配慮する必要がある。対面授業も再開されることから、コロナ感染防止のための指導を徹底するとともに対面授業方法の工夫も必要である。担当教員間で情報を共有したい。また、遠隔授業の質の向上も継続して取り組んでいく。
入学前教育→入学時基礎学力テスト→初年次教育などリメディアル教育を着実にを行うために、テスト結果等を有効に活用する。	コロナ禍により、web基礎学力テストを実施した。	基礎学力テスト結果	基礎学力テスト結果を活用できたとはいえない。今年度は授業開始が5月、教員が遠隔授業対応に集中せざるを得なかった。		基礎学力テストの結果を各学科に共有し、初年次教育担当者間で教育内容や方法の検討に活用していたく必要がある。
専門職養成において、国家試験合格率(人間福祉学科:社会福祉士57.4%、介護福祉士100%、精神保健福祉士93.3%)、児童発達学科の免許・資格取得率(保育士資格91.1%、幼稚園教諭免許状94.4%、小学校教諭免許状82.1%)及び専門職就職率(84.0%)の前年度比向上を図る。専門職就職率向上を図る。	人間福祉学科では、国家試験対策講座、模擬試験等継続して指導を行った。児童発達学科では教育現場への実習が実現できるよう支援を行い、免許、資格取得意欲維持を図った。	対面授業実施計画 国家試験対策講座 日程表 児童発達学科実習配当記録	人間福祉学科国家試験結果:社会福祉士34.4%、介護福祉士100%、精神保健福祉士58.3% 児童発達学科:免許資格取得希望者の取得率 保育士資格96.1%、幼稚園教諭免許状95.6%、小学校教諭免許状94.1%、専門職就職率90.0% 人間福祉学科の国家試験合格率が社会福祉士、精神保健福祉士で前年度より低下(但し、社会福祉士は全国平均を上回っている)、児童発達学科については免許資格取得率は向上した。	国家試験結果 免許・資格取得率	2021年度は対面もある程度実施可能であると予測できる。国試対策について2019年度の指導内容を実施できるよう配慮していく。
国際化、異文化理解教育の充実を図る。GCIとの連携、海外短期FW等プログラムの充実を図る。	海外留学はコロナ禍で未実施。		2020年度は未実施。		グローバルな視点を持つためにも日本在住の外国人との交流の機会等経験できる方法を検討する必要がある。
就職内定率について、前年度実績は、コミュニケーション社会学科90.9%、児童発達学科97.2%、人間福祉学科94.7%、心理学科93.6%、学部全体で95.3%であった。各学科で1%増をめざしたい。	2020年度は、コミュニケーション社会学科94.2%、児童発達学科94.8%、人間福祉学科91.7%、心理学科81.3%、学部全体で90.8%であった。コミュニケーション社会学科、心理学科学生の上場企業就職率は、上場関連企業就職 達成状況 2021年3月31日現在 心理 内定者50名 上場企業16名 達成率32% コミ社 内定者41名 上場企業12名 達成率29% また、児童発達学科および人間福祉学科の専門職就職率は、児童発達学科 77名/就職希望者97名=79% 人間福祉学科 41名/就職希望者48	2020年度学部就職実績 (2021.3.31)	コロナ禍で、企業の求人不安定となったこと、遠隔授業となり大学が登校する機会がなく、キャリアセンターとつながることが難しくなった学生がいたこと、など就職活動への意欲や実際の活動が鈍った。後半、キャリアセンターの努力により大幅に改善したが、コミュニケーション社会学科では前年度より就職率は下がった。	2020年度教授会 キャリアからの報告により各月の就職実績を捉えることが可能 キャリア戦略会議諮問事項 人間学部 キャリア委員会	キャリアセンターと学生が早期に信頼関係を築けるよう、3年生からキャリアセンターからの連絡をオンラインで発信するなど就活意識を醸成していく。4年生には、キャリアセンター教員が連携をとりつつ、学生の不安や迷いに寄り添いながら満足できる就職内定を得られるよう支援する。また、公務員講座等専門職就職については、参加を促していく。

2021年度 人間学部

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
1.募集 全ての学科で定員充足率100%をめざす。受験生早期獲得を目指し、来校型オープンキャンパスを、感染対策を講じながら積極的に実施し、9月統合型選抜(オープンキャンパス参加型)に取り組む。
2. 教学① 前年度退学率下回るよう1.8%を目標とする。クラスアドバイザー面接等を通して、学生の就学意欲や経済的状況について把握するように努め、課題を共に考え対応方法等のアドバイスを行う必要がある。経済的支援プログラムについて学生委員とも協働し、学生へ着実に情報が回るようにする。
2. 教学② 2020年度は調査方法が2019年度と異なっていたため比較が難しかった。授業満足度では2019年度実績およびコロナ禍の学修環境の現状を踏まえ満足が72%を目指す。また、2020年度調査から授業についていけないと感じる学生、授業、環境への不満を持つ学生について50%を下回るようにする。
2. 教学③ 基礎学力テストの結果を各学科に共有し、初年次教育担当者間で教育内容や方法の検討する機会をもつ。
2. 教学④ 人間福祉学科が養成している各資格国家試験合格率は前年度結果より社会福祉士40%、精神保健福祉士65%、介護福祉士100%をめざす。児童発達学科では資格免許取得率保育士97%、幼稚園教諭96%、小学校教諭96%、専門職就職率92%をめざす。
2. 教学⑤ 学部FDの充実を図る。年2回開催し、教員間で情報交換、問題解決につながるようオンラインでの研修会方法を工夫していく。
3. 国際化 グローバルな視点を持つためにも日本在住の外国人との交流の機会等経験できる方法を検討する必要がある。児童発達学科では新カリ4年生に英語教育に関する科目がある。異文化理解など共生の理念について関連する分野を取り上げる。
4. キャリア 就職率:各学科で前年度比1%増をめざす。B'st'ジ'ョンを踏まえ、キャリア支援活動の充実、きめ細かいキャリア支援を通して就職実績の向上を図ることを主眼とする。具体策としてキャリアセンターと学生が早期に信頼関係を築けるよう、3年生からキャリアセンターからの連絡をオンラインで発信するなど就活意識を醸成していく。コミュニケーション社会学科は、本郷キャンパスで就職支援を受けることができる。企業就職が中心の学科であるため、これは有利に働くと考えられる。学生に積極的に動けるよう支援していく。4年生には、キャリアセンター教員が連携をとりつつ、学生の不安や迷いに寄り添いながら満足できる就職内定を得られるよう支援する。また、公務員講座等専門職就職については、参加を促していく。大学・在校生と卒業生との絆をさらに深めていき永くサポートに注力する。
5. 地域連携 4センターの活動について、コロナ禍で可能な内容を模索していく。前年度の活動は継続していく。またTJUPについては、単位互換、プログラムへの講師など人間学部の専門性を生かした形でできる限り協力する。
6. 研究 科研費申請数を前年度より2本増やす。学内共同研究費、学長裁量経費の獲得本数を前年度並みとする。